



週報

2015~2016 年度 RI 会長 K.R. ラビンドラン
RI のテーマ 『世界へのプレゼントになろう』
第 2570 地区 ガバナー 高柳 育行

国際ロータリー
第 2570 地区

狭山中央ロータリークラブ

〔例会場〕 狭山東武サロン〒350-1305 狭山市入間川 3-6-14 TEL 04-2954-2511
〔事務所〕 〒350-1305 狭山市入間川 1-24-48 TEL 04-2952-2277 FAX 04-2952-2366
<http://www1.s-cat.ne.jp/schuohrc/E> - mail:schuohrc@pl.s-cat.ne.jp
会長 江原伸夫 会長エレクト 佐藤圭司 副会長 浜野貴子 幹事 小島美恵子

〔第 3 グループ内の例会日〕 新狭山(月)、入間(木)、入間南(火)、飯能(水)、日高(火)、狭山中央(火)
所沢(火)、新所沢(火)、所沢西(火)、所沢東(木)、所沢中央(月)

第 1082 回(4 月 19 日)例会の記録

点 鐘 江原伸夫会長
合 唱 四つのテスト
第 2 副 S A A 吉松君 東 君

※出席報告

| 会員数 | 出席者数 | 出席率 | 前回修正 |
|-----|------|--------|--------|
| 35名 | 25名 | 68.57% | 88.24% |

会長の時間

江原会長



こんにちは。先週の「狭山抹茶を楽しむ会」の席でいただいたマカロンと抹茶、特に抹茶は美味しかったですね。抹茶用の茶葉と煎茶用の茶葉との違いをご存知でしたか。私もこれからは地元狭山の抹茶を楽しみたいと思いました。

また、先々週はゴルフコンペと夜間例会がございましたが、皆様にはご協力いただきまして本当にありがとうございました。特に、夜間例会では多くのご家族の方々にもご参加いただきましたことを心より感謝しております。お陰様で、ゲストのみさち様、尺八トリオの皆様の気分も高まっていたようで、エネルギッシュな歌と演奏を披露してくださいました。大盛況のうちに会を閉めることができましたことを重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。

そして、その前の週 3 月 26 日・27 日には本庄市で 2015~2016 年度の地区大会が催されました。

今回、私は会長として地区大会に参加しましたが、この二日間で色々なことを感じておりました。今日はそのことの一部についてお話しさせていただきます。

毎年行われている地区大会ですので、大会そのものは例年と大きな違いはありませんでしたが、私の場合は前回までとは感じたことが多少違っていました。今年は、初日が埼玉グランドホテル本庄で、会長・幹事及び地区役員の方々を中心としたプログラムで進行し、RI 会長代理ご夫妻歓迎晩さん会を以って終了しました。そして、二日目は(株)カインズ本部カインズホールで全会員を対象とした式典が開催されました。二日間充実した時間を過ごさせていただきましたが、昨年までの私は、今から思えば式典の開催される場所とその中身に興味をひかれていたような気がしています。それが今回は、他クラブの報告内容や発表内容を見聞きしている間、無意識のうちに、常に私共狭山中央ロータリークラブとのそれを比較しておりました。

今年度、私は会長就任の所感と方針の中で、『友情と相互信頼の絆』を更に深め、全員参加型の運営を目指します。」と皆様の前で公言しましたが、2月に催された IM といい、今回の地区大会といい、クラブ単位で行動に移す行事への参加人数が今年度は少なく、特に新たに入会された方、まだ出席されたことのない方には、是非とも参加をしていただきたく思っておりましたので、私の事前対応に不備があったと深く反省をしている次第です。

日頃のクラブ活動では、様々な事案に対しても会員一人一人が非常に強力的で一体感のある、私

の自慢の狭山中央ロータリークラブなだけに、開催場所や開催日時等をもっとしっかりとお伝えするべきであったと、そして、逆に皆様にはご迷惑をおかけしたのではないのかと思っております。申し訳ございませんでした。

稲見年度の幹事として出席した時点で気付いていればよかったなと思いましたが、遅ればせながら今回やっとそれに気がきましたので、次年度より、皆様には開催予定日にご都合を合わせていただけますようご一考いただきたいと思っています。そして、より素敵で魅力あふれる狭山中央ロータリークラブになりましょう。どうかよろしく願いいたします。

最後に、毎月発行されている『ロータリーの友』には「四つのテスト」とともに、そして、皆様にお配りした今年度の地区大会の冊子の、最初に記されている「ロータリーの目的」を読ませていただきます。

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある。

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること;
 - 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること
 - 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業及び社会生活において、日々、奉仕の理念を実施すること;
 - 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。
- ありがとうございました。

幹事報告

小島幹事

1. 2015-2016 年度 ライラダー開催について。
2. 次年度ガバナーエレクトより第一回会員増強・公共イメージセミナー開催について
3. 例会変更 飯能 RC 所沢 RC 新所沢 RC 所沢中央 RC

4. 受贈会報 入間 RC 飯能 RC 入間南 RC 所沢西 RC

5. 回覧物 高柳ガバナーより絵手紙

- ・狭山抹茶を楽しむ会浅見幸子様よりお礼状
- ・ハイライトよねやま
- ・AARJapan「難民を助ける会」より 熊本地震被災者への緊急募金について

委員会報告

R 情報・雑誌

片山委員

「ロータリーの友4月号」

横組み表紙は、2015年に就航した長崎の海賊遊覧船みらい号だそうです。

縦組み表紙は、島根県・出雲大社の神前結婚式の模様を写真に撮ったものです。皆さんも経験があるとありますが、もう一度こういうことがあれば良いなと私も思っております。

細かいことは縦組み p.30 に書いてありますので、読んでみて下さい。

【横組み】

p.6、「ロータリーとは」「ロータリーの目的」は毎回載っております。ロータリーの友で、一般の人たちと高校生のロータリーの認識度をアンケートにとったそうですが、一般と高校生の70%の人は聞いたことがあると、そして内容は30%の人が理解をしてくれたと出ておりました。

p.31には、2630地区の岡田ガバナーが書いたもので、「明るく楽しく元気よく、そして適当に」とあります。適当にとはどういう事だろうと読んでみましたら、なるほどなと思うことが書かれておりました。皆さん読んでみて下さい。

【縦組み】

p.18、の下にエンディングノートとあります。これはある株式会社の方が投稿されたものですが、この中に葬儀のことが書かれております。最近では葬儀も家族葬等簡単になってきているとのこと、中を読んでいきますと、この投稿した方は葬儀屋さんではないかと思うような文章があります。それは、次頁真ん中あたり、「私のお葬式」の項目では、最近、密葬や家族葬が多くなりましたが、葬儀後、遺族の知らない人が来たり、知らせてくれなかつ

たことへのお叱りを受けたと書いておりました。ですから是非、葬式をして下さいとのこと。面白いことが書かれておりますので、皆さんも一度読んでみて下さい。

p.25 に自殺を防止するためということ、なぜこれを皆さんにお話するかと言いますと、元ロータリー会員だった高平さんをご存知だと思います。この方が読売新聞のインタビューで、色々苦労をして一時は自殺を考えたとお話しており、そのため私も読んでみようとして一通りみてみました。皆さんも是非読んでみて下さい。

■佐藤会長エレクトより

今週の日曜日 24 日に地区協議会があります。10 名の方の出席ということですが、3 名程欠席の連絡が入っております。時間は午前 7 時 50 分に狭山中央ロータリークラブ事務局の駐車場に集まって頂き、午前 8 時出発したいと思っております。時間厳守で宜しくお願い致します。また、27 日には次年度役員・理事・各委員会委員長にお集まり頂き、炉辺会合を喜代川で 18 時半から開催致します。出席者 23 名となっておりますので宜しくお願い致します。



「会員卓話」・・・・・・・・

「真田家のあれこれ」

小澤泰衛会員



今を去る 400 年前の 1615 年（慶長 20 年）に行われた「大坂夏の陣」の戦いで真田信繁（通称「幸村」と称される。以下、同名を使用）は、徳川家康を追詰めながらも討ち洩らして戦死し、この戦い

で大阪城は落城し豊臣家は滅亡している。（幸村の長男大助も秀頼自害を見届けて殉死。）

この節目の年に、NHK が大河ドラマ「真田丸」を企画・制作し、今年 1 月から放映を始め、現在 4 月の 3 週目までが放映済みである。

私の母校である上田高校の「関東同窓会」では、毎年、様々な分野の専門家を招聘した講演会を開催しており、昨年は NHK が 1 年間に亘って放映する大河ドラマ「真田丸」のチーフ・プロデューサーを務めている「屋敷陽太郎氏」を講師に招き講演会が開催された。私は所用で当日欠席したため講演の内容を聞き漏らしたが、出席した同窓生に聞いたところによると、屋敷氏が手掛けた大河ドラマ「新選組」「篤姫」「江～姫たちの戦国～」などや、連続テレビ小説「私の青空」「ガラスの家」「眠れる森の熟女」「君達に明日はない」などに関する企画・制作過程での裏話や制作中の新たな発見などを披露された上で『プロデューサーは企画を立て、脚本の作成に関わり、出演者を揃えるのが主な仕事である。重要なことは、視聴者の各層に幅広く観てもらえるよう、時代考証や性別・世代別等を多面的に考慮しながらドラマを仕立てるのが大事であるが、これが難しい。一例を挙げると「篤姫」の場合、出身地の鹿児島でも放映前は同姫のことを知る人が殆どおらず、県庁の職員でさえも「篤姫は無名人、このドラマは当たらない。」と言っていた。

しかし、放映半年後に鹿児島を訪れると県立博物館の 1 階に「篤姫特別コーナー」が設けられていた。

自分達が描く今回のドラマも、史実と判明したものを基本としているものの、諸説も考慮に入れているので、様々なご意見が寄せられるかも知れないし、新たな発見もあるのではないかと期待をしている。』と述べたそうである。

この大河ドラマがテレビに登場したのを契機に、各書店の店頭にも多種多様な「真田関連本」が山積みになっているのも特徴的である。

真田家は長野県上田市の真田地方を発祥の地とする豪族であって、武田・上杉・織田・豊臣・徳川各家などのように一国或いは全国を支配した大名ではなく、常にいずれかの家臣として存在していた豪族である。幸村の祖父「幸綱（幸隆と言う説も

ある。)」と父の「昌幸」は、共に武田信玄に仕えて
武将にまで登り詰めたが、昌幸は武田家滅亡後には、
知略・謀略・戦略を駆使して戦国時代を生き抜き、
真田家を戦国大名にまで押し上げた人物である。

昌幸の子で長男の信幸（後に信之に改名。）は、
冷静で且つ誠実な人物で徳川家康に臣従し、後に
信濃国上田藩の大名に取り立てられ、その後、松代
藩主に移封（上野国沼田領を併せ 10 万石とも言わ
れる大名となり、93 歳で長寿を全うしている。）さ
れたが真田一族の血を残す道を選んだ。なお、松代
藩は、幕末まで大名家を務めた。なお、有名な「佐
久間象山」は松代藩の出身である。

また、昌幸の次男である幸村は真田家の当主で
はなく、徳川秀忠軍との第二次上田城攻防戦でも、
父昌幸の作戦に従って戦った程度の実験経験しか
なく、しかも晩年は一介の浪人に過ぎなかったの
に、江戸・明治以降の各世代を通じて戦国武将とし
て極めて高い人気を保っているのは何故だろうか。
「幸村」は、徳川家からの度重なる勧誘があり、生
き延びる道があったにも関わらず、敢て豊臣家の
ために戦うという茨の道を選択し、大坂冬の陣で
は「真田丸を築いて戦う戦術で徳川軍に大損害を
与えたこと」と翌年夏の陣では「一隊を率いて家康
本陣に突入する戦術で孤軍奮闘し 49 歳で壮絶な
最後を遂げたこと」に人々は感動する。これは時の
権力に抵抗し、死を覚悟しながら自らの信念を貫
く行為に感銘する日本人特有のメンタリティーに
よるもので、「赤穂浪士」の例と同様、人気の源泉
になっているのではないだろうか。

1900 年（明治 33 年）開校の旧制上田中学校・
現上田高校は、明治 17 年に設けられた「長野県中
学校上田支校」の当時から「三の丸」内に設けられ
ていた上田藩主の屋敷跡を学舎として使用してきた。
私も古い木造校舎で旧制中学・新制高校時代を
過ごしている。

当時は真田家の歴史について余り関心を持って
いなかったが、今回の大河ドラマが「真田家三代と
信州上田」に関連するドラマであるので、改めて関
係書籍や資料を急遽学習し、臆げながら知り得た
知識の範囲内で「昌幸」を中心に真田家の概略を明
らかにしたい。唯「真田家」に関しては皆さんがす

で十分ご存知で、今更お話するのもおこがまし
い程度の内容ではあるが、お許しを頂きたい。

1. 祖父の真田幸綱は、甲斐の守護大名である武田家
の侵攻を受け、一旦は真田家の本領である小県
郡真田郷を失い上野国（群馬県）に逃れていたも
のの、その後、武田家に仕え、無敵の武田信玄で
さえ 2 度にわたって大敗（「砥石崩れ」と言われ
る戦。）を喫した北信濃の「村上義清」を調略に
より打ち破ったり、上杉謙信との 12 年間に及ぶ
「川中島の戦」に、小県郡松尾城主として初戦か
ら参戦したりして、多くの戦功を挙げ、実力が信
玄に認められて重用された。最終的には越後の
上杉家や小田原の北条家の牽制役を務め、武田
家中の軍略家として確固たる地位を築き、普代
の臣でもないのに「武田二十四将」の一人に数え
られるまでになっている。信玄が 1573 年上洛の
途上で病死したが、幸綱もその 1 年後に亡くな
っている。

なお、幸綱は武田家に臣従した頃から「何時でも
死ぬ覚悟があるとの気構えを示す」ため、三途の
川の船賃と言われる「六文銭」を家紋と軍旗に使
い始めたと言われている。

2. 昌幸は、幸綱の三男として出生（信玄の母方に繋
がる武藤家の養子になる）し、四男と共に幼少の
頃から武田家の人質になっていたが、信玄はその
英邁さを高く評価し、近衆 6 人に加えたほか、
若くして足軽大将に抜擢するなど、彼を「わが目」
と称して絶大な信頼を寄せていた。

真田家を継いだ長男信綱と次男昌輝も共に信玄
に仕えて信任の厚い武将であったが、1575 年
（天正 3 年）信玄の跡を継いだ武田勝頼が「三
河長篠城攻め」を行った際に、設楽原の合戦で織
田・徳川連合軍の鉄砲戦術に引っ掛かり大敗を
喫した。この合戦で長兄・次兄の 2 人は、当時
織田家臣であった羽柴秀吉軍の銃弾に当たり戦
死してしまった。このため三男であった昌幸が
28 歳で家督を継いだ。

昌幸は武田勝頼家臣の立場で上野国の吾妻地方
の計略に力を注ぎ、北条家保有の沼田城を奪取
し永年に亘りその地の確保に腐心している。

1582 年（天正 10 年）武田家は織田信長の攻撃
を受けて滅亡した。勝頼の死後、主家を失った真

田家はその対応が家の命運を左右するので、当時、破竹の勢いがあった信長に臣従し生き延びる道を選択した。しかし、その3ヶ月後に信長が本能寺の変で横死したので、上杉氏・北条氏・徳川氏が勢力を伸ばし始めた。昌幸は初めは勢力がやや優勢な北条氏に、次いで、北条氏と小競り合いが続く沼田領を護るため徳川家に臣従し、僅か半年の間に3度も主家替えを行っている。武田家が滅亡した結果、同家の旧臣や信濃の有力国人の多数が昌幸を頼り家臣団が結成されたのを機に、昌幸は砥石城を始め複数の山城を持つ小大名として歩み始めた。彼は圧迫してくる上杉家に対抗しながら小県郡全域を掌握して本格的な領国経営に乗り出すため、1583年(天正11年)上田盆地の中央部に上田城を築造した。この城は、南側が千曲川分流「尼ヶ淵」の切り立った断崖上に立地し、北及び西側は「百間堀」と称される大堀等を配置し、あえて天守閣を設けない本丸と二の丸・三の丸などからなる攻め難い城であった。

1584年(天正12年)家康は信長の後継者を名乗る秀吉と小牧長久手での対峙に備え、対立する北条氏に背後を脅かされないよう、昌幸の領地である「沼田領の譲渡等」を条件に北条氏と和睦することとし、その旨を昌幸に伝えた。昌幸は当時徳川家に臣従してはいたが、同家から与えられた領地ではないことを理由にその命令を拒否した。激怒した家康は翌年7000名の軍勢を送って上田城を攻撃した。昌幸は2000名弱の軍勢しか保有していなかったため、当時17歳の「幸村」を上杉家の人質に差し出し、援軍を要請してその加勢を得ると共に、上田城を巧みに利用した戦術を駆使して遊撃し徳川軍を撃破した。徳川軍は再度上田城攻撃の機会を狙って、丸子支城攻めなどをしながら小諸城に長期滞在していたが、昌幸はそれを横目に上杉軍の労力を利用して上田城の増強工事を実施してしまった。つまり、徳川と上杉両家を利用した難攻不落の城塞を手に入れたと言える。更に、昌幸は秀吉と同盟を結んでいる上杉景勝を通じて秀吉に接近し、上杉家の人質だった「幸村」を豊臣家の人質に差し出して秀吉に臣従した。その後、秀吉の命

に従って1587年(天正15年)家康と和睦している。

その2年後、秀吉が北条家を討伐する出陣命令を発したので、昌幸は長男信幸と次男幸村を伴って出陣し、上杉家の軍勢などと合流した上で、上野や武蔵の諸城(松井田、前橋、倉賀野、松山、河越、八王子等)を攻略している。なお、1590年(天正18年)に北条氏は秀吉軍に屈して滅亡している。

昌幸は秀吉麾下の武将として奥州の仕置や朝鮮出兵(肥前名護屋城在陣)に従軍している。秀吉は天下統一を達成した後、関東や信濃国などの諸大名の大規模な配置天封を実施したが、その際、昌幸本人は上田城主として小県郡と上野沼田領を安堵され、また、信幸も父昌幸と不可分という位置付けで、大名格として沼田城の支配が認められた。

また、豊臣家の人質になっていた幸村も秀吉の覚えが目出度く、豊臣姓を名乗ることを許され、朝廷からは「従五位下・左衛門左」に叙任される程信頼の厚い秀吉麾下の武将として秀吉が亡くなるまで13年間仕えている。一方で、昌幸については秀吉が景勝に宛てた書状の中で「真田は表裏比興の者である」と記しており、昌幸には表と裏があって油断がならない人物であると評価している。

3.秀吉は、世継ぎの秀頼が成人するまで、五大老(徳川家康、前田利家、上杉景勝、毛利照元、宇喜多栄家)と五奉行(石田三成、長束正家、前田玄以、増田長盛、朝野長正)の合議制で政権運営を行うように遺言し、その遺言を順守する旨の誓詞を数次に亘って提出させた後1598年(慶長3年)62歳で死去した。しかし、翌年、大老のナンバー2である前田利家が病没すると、徳川家康の影響力が一気に強まり合議制は有名無実化し、徳川派と反徳川派に分裂する事態となった。このような情勢下にあった1600年(慶長5年)家康は、当時会津に帰国していた上杉景勝に対し「旧領の越後領の取戻しと佐竹藩と組み関東一円の支配をするため軍備拡張を始めており、豊臣政権が定めた私戦準備禁止令(惣無事令)違反の疑いがある」として即刻上洛するよう要求したが、

景勝は「事実無根である」としてこれを拒絶した。これをチャンスと家康は「上杉打倒」の兵を挙げて出陣し、途中の江戸城に於いて諸大名に集結して会津に討ち入るよう要請している。一方、家康が上杉攻めに出陣したことを知った石田三成は「家康の行動は故太閤の遺命に背くもので正当性がない。」旨の弾劾状と、奉行らとの「連署状」を作成して全国の大名に送付する一方、毛利家、島津家などの大大名を始めとした諸大名を味方に引き入れ、また、大坂に集まった浪人達を徴募し入場させた上で、挙兵した。

上杉討伐軍に合流するため下野（栃木県宇都宮市）に向かって進軍していた昌幸は、討伐軍と合流する直前の下野犬伏（栃木県佐野市）に着陣した際に、弾劾状を受け取り、この緊急事態に対処するため信幸を呼び出して昌幸・幸村の三者で急遽対応策を協議した結果、昌幸と幸村は犬伏で陣払いし上田に帰り三成方に味方することに、信幸はそのまま下野に進んで家康方に味方することに決した。

資料が殆ど残っていないため、親子・兄弟が敵味方に分かれた理由が判然としないものの、次のような事情が背後にあったと考えられる。

信幸… (1) 信幸は、家康の重臣の本多忠勝の息女で、家康の養女となっている「小松姫」を正室に迎えており、家康と姻戚関係にある。

(2) 父昌幸と不可分ではあるが、分家した大名格で沼田城主になっている。

(3) 「家康の上杉討伐の動員に応じて下野まで出陣してきた以上、今更逆心を持って石田方に寝返るのは不義である。」と主張したものと考えられる。

幸村… (1) 幸村は、石田三成の盟友であり、豊臣家の重臣である大谷吉継の息女「竹林院」を正室に迎えている。

(2) 故太閤秀吉の厚遇（麾下の武将として豊臣姓を名乗ることを許され、官位まで授かったことなど）に恩義を感じており、それに報いるため秀頼を奉ずる石田方に味方することに賛成したのではないか。

昌幸… (1) 1584年（天正12年）、家康が上田城を攻撃した際に上杉景勝が援軍を送ってくれたこともあって合戦に勝利でき、しかも秀吉との縁を取り持ってくれた恩人でもあるので、内心では上杉討伐に反発していたのではないか。

(2) 昌幸は「家を分けることは結局、家の存続に繋がる一つの方法である。」と言ったと伝えられているが、二大勢力に分れた決戦の場合は、一家が両陣営に別れていれば、勝敗がどちら側に転んでも血統を残すなど生き延びることができる。

(3) 昌幸は、秀忠率いる徳川軍を上田に引き留め、三成方との決戦に合流させなければ家康方の勝利はないと考えていた。このため三成に味方した場合の待遇や勝利後の恩賞について、予め三成の意向を確かめ「自力次第・手柄次第で信濃国・甲斐国を与える」との回答を得た上で参戦する決定をしている。

4.家康は「下野小山」で三成の挙兵を知って急遽軍議を開き、上杉討伐を当分見合わせ、三成らの西軍と直接対決して決戦を行う決定をした。そして、先ず真田昌幸を討伐するため徳川秀忠を総大将とした遠征軍を編成し、下野（宇都宮）から直接上田城を目指して進軍させ、自らは一旦「江戸城」に戻って軍勢を集め、江戸から西上して「美濃」で秀忠軍と合流することにした。

秀忠は、徳川普代の臣ら38000余名の軍勢を率いて上田に向かって進軍し、小諸城に布陣した。そして、信幸を通じて「降伏勧告」させたところ、一旦は、昌幸から「降伏申出」があり、降伏に向け交渉が行われたが、昌幸は条件が合致しないなどを理由に降伏を拒絶した。怒った秀忠は上田城への総攻撃を命令した。なお、昌幸のこの動きは、軍備を整えるための時間稼ぎと初陣の秀忠を挑発する策謀であったとも言われている。徳川の大軍に対し昌幸・幸村の手勢は僅か5000名程度の少勢に過ぎなかった。そこで、この不利

を克服するため、領民に褒賞授与を告知し参陣させる、各所に伏兵を配置する、神川（千曲川に注ぐ河川）の上流を塞ぎ止めるなどの布石を打った上で、徳川軍を挑発し、神川を渡って易々と上田城まで攻め込ませた後、城方や側面から鉄砲や弓矢で激しく攻撃、混乱状態に陥った徳川軍を追撃し、更に、敗走する徳川軍の退路を絶つため神川上流の堰を切って増水させ多数の溺死者を出させるなど巧みな戦法を駆使して徳川軍に大損害を与えた。秀忠は大敗北を喫し面目を失ったこともあって、その後も上田城攻略に固執していたが、家康との合流遅延を憂慮した家康の重臣・本多正信の諫言を受け入れ攻撃続行を断念し、小諸、松本等の城主に後の押さえを命じて、間道経路で諏訪を抜け中山道を急ぎ、ようやく妻籠を抜け出したが1600年9月15日に戦われた「関ヶ原の合戦」は既に終了していて、決戦に間に合わなかった。秀忠が家康に追いついたのは、それから5日後の近江大津であった。

「関ヶ原の合戦」は小早川秀明らの裏切りにより、三成方の戦線が崩壊したため、僅か1日で決着がつき家康方が勝利した結果、反徳川派は一掃され「豊臣体制」は崩壊し家康が実権を握った。

5. 「関ヶ原の合戦」で三成方が敗北したため、家康に対する昌幸・幸村親子の抵抗は終止符を打った。このため昌幸の目論みも外れ孤立無援となった彼等は息子の信幸らの説得に応じ徳川方に降伏した。ところで、三成方に味方した諸大名に対する処分をみると、首謀者の三成は京都で処刑、宇喜多秀家は八丈島に流罪、大坂方の総大将であった毛利輝元は安芸120万石から周防・長門二か国36万石に減封、「惣無事令」違反とされた上杉景勝は会津120万石から米沢30万石への大幅な減封、景勝と同盟した佐竹義宜は常陸54万石から出羽国秋田郡20万石への減封などだった。

しかし、昌幸・幸村親子へは死罪が言い渡された。これは三成方との戦闘で本体になる筈の秀忠軍が、昌幸・幸村親子のため決戦に遅参し秀忠の面子が丸つぶれになったことに対する秀忠の「怒り」と、北条氏に関わる沼田領問題で家康に

逆らったため戦われた第一次上田合戦で敗退を余儀なくされ、更に、三成方の味方をしたために秀忠軍を派遣攻撃した第二次上田合戦でも大敗しているため、昌幸親子を「徳川の天敵」と見做した家康の「怒り」からである。

徳川方に組みした信幸（「信之」に改名）は、より一層の忠節を尽くす旨を誓約すると共に、家康の重臣・本多正信や舅の本多忠勝に縋って必死の助命嘆願を行った結果、秀忠は強硬に死罪を主張したものの、最終的には家康が折れ昌幸親子の死罪を免じ、高野山への追放を命ずる処分となった。

昌幸（54歳）と幸村（34歳）は、それぞれ家族と家臣16名を従えて高野山へ向かい、一時的に真田家の保護寺である「蓮華定院」に滞留した後、最終的には高野山麓の九度山に屋敷を構え、紀伊国和歌山城主・朝野幸長の監視下で、食い扶持の捻出に苦勞しながら蟄居生活を送り1611年（慶長16年）昌幸は享年65歳で没した。

6. 関ヶ原の合戦後、徳川方は上田城の本丸・二の丸の全ての建物等を破壊し、土塀を崩し堀も埋めたて廃城とした上で信幸に渡した。信幸は藩政を取り仕切るため止むなく「三の丸」に藩主居宅を構えたものの、城の修復については徳川方に遠慮して手を付けないまま1622年（元和8年）松代へ転封になっている。次の藩主・仙石忠正は上田城の復活を目指し修復に力を注いだが、その途中若くして亡くなっている。

1706年以降の藩主は代々松平家が継承したが、城の修復も藩主居宅の移転も行わないまま「明治」を迎えた。

ニコニコボックス

- 江原君 日々の温度差になかなか体の方がついていきません、皆様も体調面にはくれぐれもご注意下さい。本日の会員卓話を小澤パスト会長にお願いしております、お話しを楽しみにしております。何卒宜しくお願い申し上げます。
- 小島君 小澤パスト会長、卓話楽しみにしていました。宜しくお願い致します。
- 浜野君 小澤パスト会長、本日の卓話楽しみにしていました。宜しくお願い致します。
- 稲見君 小澤パスト会長、今日のお話し楽しみにしています。
- 益子君 本日の会員卓話、小澤パスト会長のお話し楽しみです。よろしくお願い致します。
- 奥富君 江原会長、役員の皆様、日頃のクラブ運営ご苦労様です。小澤さん卓話よろしくお願ひします。
- 守屋君 小澤殿、卓話楽しみにしております。
- 佐藤君 本日の会員卓話、パスト会長小澤会員の卓話楽しみにしておりますので、宜しくお願い致します。勉強させていただきます。
- 若松君 小澤さん、今日の卓話楽しみにしていました。

※ 次の例会

5月 3日 (火) ⇒例会取り止め (定款6-1-C) 憲法記念日

※ 次の例会

第2副SAA 石川君 片山君

5月10日 (火) 12:30~13:30

外来卓話 尚寿会理事長・大生病院 院長 寶積英彦様